



女子サッカー部報告

編集
大熊沙也佳・田中ちひろ(2年生)

毎日ブログ更新!最新情報はこちらで!!
<http://toin.sakura.ne.jp/>

KEEP EVOLVING to MAKE LEGEND

2014年8月3日 NO.70

2014-2015 シーズンチームスローガン: 伝説を作るために進化し続ける

～平成26年度第67回近畿高等学校サッカー選手権大会女子の部～

インターハイ出場目前で逃す

準決勝で京都精華にPKで敗退

平成26年度第67回近畿高等学校サッカー選手権大会女子の部は6月21日から23日まで京都下鳥羽公園球技場ほかで行われ大阪桐蔭は準決勝で京都精華に2-2PK1-4で敗れ、あと少しで届いたインターハイの切符を逃した。日ノ本学園が決勝で京都精華を3-0で破り2年ぶり2度目の優勝を飾った。8月1日から東京で行われる全国大会へはこの2チームが参加する。

大阪予選で大商学園を6年ぶりに破り初めて近畿大会出場を決めたが、1回戦で登美ヶ丘を破った京都精華に先制を許す苦しい展開、ハーフタイム直前に持田の同点ゴールで追いつき後半を迎えた。しかし再びカウンターから失点し、残り12分で猛攻撃をかけ終了間際に持田のコーナーキックから呉屋が頭で決め同点に追いついたが、PK戦では2人が外してしまった。

開始から攻撃的に戦いシュート数は24対2で圧倒しながら2点しか奪えなかった。チャンスを生かすことをテーマにトレーニングしたが全く生かされなかった。

◇準決勝(6月22日、下鳥羽公園球技場)35分ハーフ(カッコは前半のスコア)

大阪桐蔭 1-1(1-1)PK1-4 京都精華
【得失点】17分失点京都精華園田、34分持田、58分失点京都精華谷口、66分呉屋

この試合は、初のインターハイ出場を決める大切な試合となった。大阪桐蔭は、公式戦で負けたことのない京都精華と対戦した。京都精華は17分に大阪桐蔭守備バランスを崩したところから左サイドを谷口に突破され、中央に上がってきた園田にクロスを合わされ先制点を決められた。1点ビハインドで終わると思われた終了間際の34分、大阪桐蔭は持田がドリブルで左サイドを突破し強引に押し込み1点を返した。後半何度かチャンスを作るものの決めきれず、攻撃につなげずカウンターを受け京都精華に再びゴールを許してしまった。何としてでも1点がほしい大阪桐蔭は31分持田からのコーナーキックに呉屋がヘディングで合わせ得点。そのまま2対2でゲームが終わり、勝負はPK戦に持ち込まれた。

PK戦ではキャプテン持田、得点を入れた呉屋が連続で外し、一方京都精華は全員がしっかり決め1-4で敗戦し初のインターハイ出場を逃した。この負けでチームの得点能力の低さなど改善点がはっきりとわかったが、攻撃的に行なったサッカーで結果が出ず本当に残念な大会となった。

皇后杯は関西大会出場

第36回皇后杯全日本サッカー選手権大会大阪府予選は6月29日からJ-GREEN堺他で行われ大阪桐蔭高校は準々決勝で追手門学院大学を破りベスト4に進出し、関西大会出場を決めた。準決勝で大商学園に敗れ3位で関西大会に出場となった。

◇皇后杯1回戦(6月29日、履正社グラウンド)35分ハーフ

大阪桐蔭 5-0(4-0)桜宮高校
【得失点】14分村松、21分岩根、22分持田、25分京井、70分持田

インターハイ出場を逃した大阪桐蔭は次の目標である皇后杯出場に向けての大切な試合が行われた。初戦は桜宮高校との戦いだった。試合は前半14分に村松がボールを受けロングシュートで先制。前半21分にはCKから岩根が合わせ2点目。その1分後には、スルーパスに抜け出した持田が華麗なループシュートで3点目。25分には田中楓子のクロスボールに合わせた京井が4点目を入れ前半を終えた。後半に入るとチャンスはあったものの決めきれず、後半25分に持田が決めた1点で試合が終わり5-0。何とか勝つことができたが課題が残る試合だった。

◇皇后杯準々決勝(7月5日、J-GREEN堺)35分ハーフ

大阪桐蔭 2-1(2-1)追手門学院大学
【得失点】7分京井、12分呉屋、20分失点

◇皇后杯準決勝(7月20日、J-GREEN堺)

35分ハーフ

大阪桐蔭 1-1(0-0)延長 0-0(0-0)PK8-9 大商学園

【得失点】14分持田、23分失点大商学園嶋林
◇皇后杯3位決定戦(7月21日、J-GREEN堺)40分ハーフ

大阪桐蔭 1-0(0-0)追手門学院高校
【得失点】41分足立

関西リーグ第3節

◇第3節(6月8日、美作グラウンド)40分ハーフ

大阪桐蔭 2-3(0-2)岡山作陽
【得失点】20分失点、38分失点、44分失点、75分持田、78分持田

関西リーグの第3節が行われた。1、2節ともに引分けの結果から、大阪桐蔭はこの試合で勝つとベスト4の目標が見えてくる試合となった。試合が始まると前半20分に作陽に先制された。さらに自陣でのパスをカットされ失点、2点リードを許し前半を終えた。後半に入りさらに追加点を奪われ難しいゲームとなった。このまま終わるのではないかと思われたが、後半35分永野からのパスに抜け出した持田がゴールを決め2点差。さらに勢いに乗り3分後に持田が個人の突破でゴールを決め2-3とした。その後も何度かチャンスはあったが決めきれずそのまま終わり負けてしまった。関西リーグでは、次のゲームを勝利しなければベスト4の目標は難しくなる。

日中韓国際大会6名選出

7月7日から11日まで日中韓国際女子サッカー大会がJ-GREEN堺で行われた。大阪桐蔭から持田、呉屋、森田、岩根、村松、足立が選出された。持田はこのチームのキャプテンを任された。他に日頃ライバルチームの大商学園や追手門など将来有望な選手で構成された。この大会は日本、韓国、中国(上海)で毎年持ち回り開催されており今年は大阪で開催された。

3チームに加え2016年に行われるFIFA U-20女子ワールドカップ出場を目指すU-18日本代表も参戦、リーグ戦でU-18日本代表が3勝優勝した。U-18大阪府女子選抜 2-1 上海 U-18大阪府女子選抜 5-0 韓国 U-18大阪府女子選抜 0-6 U-18日本代表